No.5

JCHO中京病院看護部

ネモフィラ通信

2年目の現実　～　25病棟　外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科　～

25病棟は、手術を控える患者さんが多く入院するため、患者さんとの関わりを通して、周術期前後の看護について学べます。周術期の患者さんは刻々と状態が変化し、時には急変も起こりえることもあります。

ただ現実は、周術期の患者さんばかりでなく、慢性期やターミナル期の患者さんも同時に入院してきます。その他診療科の患者さんも多く入院されており、幅広い疾患について勉強する必要もあるのです。そんな中でも、看護師だけではなく、医師・薬剤師など多職種で連携を取り合い、日々患者さんの安全を守ることに努めています。やがて、患者さんが元気になって退院していく姿を見ることが、とてもやりがいを感じる瞬間です。当たり前ですが、学生時代より多くの患者さんを受け持ち、タイムマネジメントや優先順位を常に考えながら、動かなければなりません。そこに気付けるようになったことが、成長した実感の一つです。もっと患者さんの声を聴きだせるよう、知識と技術を積んでいこうと思います。

2年目　R・H　N・H

今月のTOPIX　　実践能力を養うフィジカルアセスメント

『フィジカルアセスメント』とは、患者の症状や徴候から情報を収集し、必要に応じて触診や聴診を行い、患者の状態を判断することにあります。

今年度は新人～ラダーレベルⅡまで、レベルごとの研修を実施しています。研修では言葉の意味から病態生理の復習、そして実際に診る・聞く・触る・嗅ぐなど5感を活用した学習もあります。

最後には具体的事例を通して、先輩ナースがよりリアルな患者役となり、研修生が四苦八苦しながらアセスメントしなければならない試練を乗り越えて、研修を終えています。

～看護臨床教育委員会～

看護情報交流委員会　　発行　2021.8.1